

第87回 (R7. 3)

人財 人材 人在 人罪 人災

今から20年前、八束郡の7カ町村と合併し、新しい松江市が誕生した。今年は合併20年に加え、松江城国宝指定10年、更に朝ドラの舞台と、我が松江は賑やかな年になりそうである。

それはさておき、平成の大合併により島根県の町村数は51から11へと激減した。その結果、多くの町村長が退任したが、当時の町村長さんは多士済々、傑物ぞろいでの存在感抜群の方々だった。

隠岐の孤島を全国区にした海士町の山内町長、ホッケー王国を築いた仁多町の岩田町長、工業団地に刑務所を誘致した旭町の岩谷町長等々。多くの町村長さんが切磋琢磨しながら、情熱と行動力で地域を牽引しておられた。

その中でひととき話が巧かったのが、仁摩町の泉町長。新聞記者の出身で、お年寄りが編んだ藁草履を、京都太秦の撮影所に売り込む名物町長だった。

泉さんによれば、人の評価は5段階で表すと次のようになる。**人財、人材、人在、人罪、人災**。真ん中の**人在**は、ただそこにいるだけの人、毒にも薬にもならない人。**人材**は文字通り集団や組織にとって有用な人。**人財**となると、これはもう得難い宝物のような人。ここまではいいのだが、**人罪**は存在自体が罪な人。最悪なのは**人災**で存在自体が災いである人だという。

こういう視点で人間観察をするのも一興ではある。しかし、人は生まれながらにして人財だったり人災であることではない。人生というドラマの中で、人は人財にも人災にもなる。その昔、人財であった人が今や人罪、人災となる例も、また逆の例も多々見受けられる。人の評価は単純ではない。ところで今の自分はどう?